

日本女子体育大学

Dance Letter Vol.40



SHOWCASE 2021夏

井内ひか梨(1年生) SHOWCASE(A1クラス)

偶然同じクラスになったA1のメンバーは、先輩2人が考えて下さっていた作品のイメージを180°変えてしまう程の個性の強さと、明るさを持った19人でした。

私は慣れない技やコミカルな動きに苦戦し、心が折れそうになることもありましたが、しかしあざを作りながらも一生懸命練習し、仲間に支えられ、学ぶことがたくさんありました。この作品に向き合ったことで、ダンスの表現の幅の広さを感じ、自分の殻を破ることができたと思います。本番では、新型コロナウイルスの影響により無観客という形にはなってしまいましたが、メイクをし、衣装を着て、舞台上で照明を浴びながら踊れる有り難さを、身に染みて感じました。本番では、ずっとマスクで隠れていたみんなのいきいきとした表情をみて、日本女子体育大学ダンス学科に入学して良かったと心から思いました。

作品のタイトルにある「カリステプス」の花言葉、「多様性」のように、ジャンルも経歴もバラバラなみんなが集まり、先輩2人の愛の籠ったユーモア溢れる振り付けを踊れたことは、私の誇りです。この状況下でSHOWCASEを経験できたことに感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました。



奥苑那雪(1年生) SHOWCASE(A2クラス)

私たちA2クラスは、ジャンルや経歴もバラバラな18人が集まりました。はじめは、今まで経験したことのないジャンルの振り付けに戸惑いでしたが、一つひとつクラスの皆で解決しながら、お互いを高め合い取り組むことができました。作品を通して、色のない世界に私たちが色をつける「ドレミファソラ色」はどのような色なのか、練習を重ねながら考えてきました。本番では、それぞれがやってきたジャンルを活かしつつ、最後のユニゾンでは私たちだけにしか表現できない世界観を創り上げることができたと思います。この作品で色付けた「ドレミファソラ色」は、A2クラスのようにカラフルで温かみのある色だったと感じます。

一人ひとりに寄り添い、支え続けて下さった先輩方にはとても感謝しています。自分達では気づけなかった強みを引き出して頂き、これからもっとダンスの可能性を広げていきたいと思いました。

厳しい状況の中、素晴らしい経験をさせて頂きありがとうございました。この経験を糧に、さらに成長できるよう努力していきます。



佐竹日和(1年生) SHOWCASE(A3クラス)

私達の演目は「人であること」でした。

生きていく中で群れとして生き、個としても生きることが出来る人間の様を魚とリンクさせて表現したこの作品は、私たちをクラスとしても1人1人としても成長させてくれました。創作活動はお互いに初対面で誰がどんなことをしてきたのかも知らぬまま始まりました。しかし練習を重ねていくうちに、お互いの凄さや魅力に気づくことで興味を持ちクラス内での会話が増えるようになりました。互いが踊りを見合うことで、そこで生まれる発見が作品のクオリティをあげることに繋がりました。「もっとこうしたい…これを目指したい」そんな言葉が増え、自分達のモチベーションが上がっていくのを実感することができたと思います。その環境を作ってくださったA3の振付者の先輩方。A3の誰しもが私もこのような先輩になりたいと思う、先輩の偉大な背中を見ることができました。完成した作品からは、1人欠けても完成しない群舞だからこその良さが伝わったのではないかと思います。

コロナ禍という状況の中、去年は叶わなかったSHOWCASEの舞台上でA3として誰1人欠けることなく踊り切れたことに感謝の気持ちを忘れてはいけないと思います。大学4年間の中で最初で最後のクラス作品。良い形で大学生活を始めることができたと思います。



立矢桃子(1年生) SHOWCASE(B1クラス)

この大学に来て初めての舞台。そしてB1クラス全員で立てる最初で最後の舞台。19人で1つの作品を踊るとなると、一人一人のSHOWCASEに対する意識、作品に対しての向き合い方、経験やレベルの違いを感じることも多くあり、全員で1つの作品を作り上げるのだという自覚をどうすれば持つことができるのか何度も考えさせられました。先輩方から喝を入れていただくこともしばしば。そうして一人一人が気づき、考え方を改め、メンバーや作品に対して誠実になれてやっとみんなの目の色が変わり始めました。しかし、クラスが1つになりつつあった本番1週間前、コロナの濃厚接触者になってしまいクラスから1名、出演できなくなってしまった子がいました。誰も悪くないからこそどうしようもできない状況にやるせない思いでいっぱいでした。そこから本番まで数少ないリハーサルは毎回必死でしたが、ここまで積み上げてきたみんなの頑張りと思いがどうにか本番の成功へと繋がったのだと思います。そして何よりこの作品の振付者であり、私たちをご指導くださった宮崎琴乃さん、横井伽歩さんには感謝の気持ちでいっぱいです。ダンサーとして、人としてあるべき姿を常にその背中で見せてくださったお2人を心から尊敬しています。

まだまだ未熟な私たちですが、このSHOWCASEを通してそれぞれが一步前へ進むことができた気がします。この素晴らしい経験を今後のさらなる成長へと繋げていけるよう精進します。本当にありがとうございました。



平川未琴(1年生) SHOWCASE(B2クラス)

今回SHOWCASE2021に出演者として参加させていただき、舞台に立つ経験から得られる学びが多くありました。練習段階では振付の3年生2人と作品を1から作り上げる楽しさや難しさを感じました。入学してで少し緊張感のあったクラスメイトとは、このSHOWCASE練習で打ち解けることができた気がします。それぞれ別のジャンルの踊りを得意としていて、自分が苦手な動きを友達に教えてもらうことができ、それぞれの専門のジャンルを生かしながら作品を作り上げていくことができたように感じます。今回踊らせていただいた「Acanthus」という作品には、「未完」というテーマが込められています。

SHOWCASEという舞台はひとつの目標で到達点ではあるけれど、それはゴールではなく通過点であり、私たちはまだ「未完」である方がこれからの可能性が広がるのではないかと、という振付者の先輩の想いが込められています。これから日女で学んでいく私たちの花はいつ開くかわからないけれど、学ぶことを諦めず、今置かれている環境に感謝して、卒業までに「完成」にどれだけ近づくことができるのか、挑戦していきたいと思う舞台となりました。コロナ禍ではありますが、公演を中止にはせず無観客という形で実現させることにご尽力いただいた先生方や先輩方に感謝申し上げます。



私丸空優(1年生) SHOWCASE(B3クラス)

私は、今まで団体の中で踊ることが多く、団体競技で踊る時には、タイミングや踊りの形など全てを事前に決めて、揃える事を重視して踊ってきました。ですが今回のSHOWCASEで初めて、全てを固めて踊るのではなく、毎回の練習でちょっと変えてみるなど、個々がその場の雰囲気や流れを感じて踊る事を知りました。そして、そのように踊ることが、自然体に見えることに繋がっていくという事を学びました。その時に自分が感じている気持ちや雰囲気、周りの人を見て動きを変えたりする事が私には新鮮であり、こんな作品の作り方もあるのだ、面白い!と感じました。また私達の作品「Miau」では表現を大切にしている、演技や表情などもとても勉強になりました。自分が何を表現しているのか相手に伝わるように動くことや、表情で自分達の表現したい想いを伝えることなど、初めは難しいこともあり、上手く伝わらないこともありましたが、みんなで切磋琢磨しながら、表現を磨いていきました。それも、本番、ラストのユニゾンではそれぞれがとても良い表情をして踊れたと思います。入学してからすぐに始まったSHOWCASE。一瞬で終わってしまいましたが、得たものがとても多くあります。振付者の先輩2人とB3のみんなで作った作品を糧にこれからも精進していきたいと思っています。



SHOWCASE 2021夏 振付者

時枝晴香・林穂乃佳(3年生) SHOWCASE振付者(A1クラス)

SHOWCASE夏で1年生たちの成長の一部となれたこと、大変嬉しく思います。振り付けだけではなく1年生たちが楽しく過ごせるようにと普段の学校生活でも沢山ふれあいました。

初めは暗い作品を作ろうとしていましたが、1年生に出会い、彼女達の底抜けな明るさに私たちも救われ、より個性を生かせる作品へと進化していきました。作品としてだけでなく1人1人がリハーサルごとに成長していく姿を見て感動し、私たち自身も成長できた面があったのではないかと思います。至らぬ点もありましたが、貴重な経験をさせて頂きありがとうございました。(林穂乃佳)

今年も映像作品になるかもしれないと聞いた時はこのまま振付者を引き受けるかとても迷い、入学してくる1年生と仲良くなれなかったらどうしよう、など不安はたくさんありましたが、実際には何の心配もいりませんでした。頼れる相手と明るくて個性的で素敵な子達と共に作り上げた作品からはより強いパワーを感じ、無観客でしたが彼女たちのダンサーとしての底なしの表現力は無限大だと強く感じました。これからの彼女達の成長が楽しみです。私達自身もたくさん勉強させてもらいました。私に関しては至らぬ点しかなかったと思いますが、関係者の皆様、本当にありがとうございました。(時枝晴香)



飯尾美海・大内涼歌(3年生) SHOWCASE振付者(A2クラス)

A2のみんなありがとう、としかいことがないくらい濃い時間でした。このコロナ禍で全員が舞台上で踊れるか不安でしかありませんでした。願いを込めて絵馬を描いたのは今となってはいい思い出です。初回リハでは緊張していたのか、空気が硬く静かなクラスなのかなと思っていました。なので、クラスの仲が良くなるように軽いゲームをして遊んだ日もありました。みんなが仲良くなるにつれて私たちの作りたい作品の雰囲気にも合うようになり、気づけば賑やかなクラスになっていました。A2のみんなは、私たちの伝えた注意点を素直に聞き入れてくれたり、私たちの振付に合うように練習してくれたり、教え合ってくれたりしました。その為私たちの想像していた以上に上手になってくれました。

そのおかげで、A2の作品が明るくて、可愛くて最高に楽しい素敵な作品になりました。みんなの対応力が良く、悩むことがなかったぐらいA2のみんなはいいダンサーです。これからもニチジョという素敵な環境でさらに素敵なダンサーになってください。みんな本当にだいすき。みみすずかより。



狩野慧成・菊永沙紀(3年生) SHOWCASE振付者(A3クラス)

初めての形態での振付は戸惑うこともあり、始まる前は特に不安だったが、やってみると楽しさが湧き出てとても良い機会となった。コロナ禍でのSHOWCASE。昨年は映像作品になったことから映像化も視野に入れなければならず、コロナへの対策を徹底しなければならなかった。リハ数に関しても私たちの時より確実に少なく、高い完成度へ作品を持っていくことが難しかった。そのため、より振付者同士で共通認識を持って進めていった。

私は本番前に自宅待機となり、みんなの本番を生で見届けられなかったことは今思い出しても悔やまれる。しかし、ひとつの経験として4月からの期間は本当に学びが多い日々で充実していた。A3クラスの人々とともに感謝する。(菊永)

1年生は私たち振付者が作り出すコンテンポラリーダンスを理解し表現してくれ、苦手意識のある動きは時間とともに完成度の高いものになっていきました。振付のニュアンスを伝えたとき、それぞれの多様な感じ方の在りようを知り、ダンサーからおもしろい表現を見つかることもできることがわかりました。こうして、アイディアの取捨選択ができ、自分にとっても学びの多い時間で貴重な経験を得られました。(狩野)



宮崎琴乃・横井伽歩(3年生) SHOWCASE振付者(B1クラス)

この度、B1クラスの振付をやらせていただきました。私たちがSHOWCASEを通して1年生に学んで欲しかったことは舞台上で踊れることのありがたさ、仲間の大切さです。B1クラスの彼女たちは真面目で努力家な子たちです。練習を重ねるにつれ、健気に頑張る彼女たちの姿は私たちが1年生の時の初心を思い出させてくれました。新しい環境になりそれぞれの悩みがありながらも努力した過程は彼女たちの力となり自信へと繋がったはずです。19人のダンサーと2人の振付者で創り上げたこの作品は私たちにとってかけがえのないものとなりました。

無事公演を終えることができたのも関わって下さった全ての皆様のおかげです。このような時世の中、学びのある機会をいただけて幸せに思います。本当にありがとうございました。



北郷志歩里・鈴木璃音(3年生) SHOWCASE振付者(B2クラス)

SHOWCASE2021夏は約半年間の活動で、短いような長いようなとても濃い時間でした。私自身振付をすることが初めてで、どのような作品を提供できるのかという不安がよぎりましたが、相方とは経験してきたダンスのジャンルが違うもののその異なる表現の形を活かしたいと思い、道筋を立て作品のコンセプトや基盤を沢山話し合うことにより、お互いが何をこの作品で表したいのかを理解して、各自の振付を構築していくことができました。

私が1年生の時に感じた色々な感情と学びを、この期間に1年生に伝えるようにしていきたいという思いが、成長する皆の姿を見ること、そして1年生が言葉をくれたことによって喜びに変わりました。また自身が振付家として作品に携わることで、創作することに対する作品の捉え方が変わり、私達自身学び成長することができたと感じられます。

このSHOWCASE2021夏を経験したことは私達にとって挑戦でした。このようなコロナ禍の中に開催を決断して下さった先生方、舞台上に携わったスタッフの方々、共に支え合い乗り越えてきた振付家の皆、そして相方やB2クラスの皆。この舞台には多くの人に関わっていて、その協力がある上で作品は初めて作品となりましたが、それは私達にとってかけがえのない時間であり、作品の表情が体現されて目に映った瞬間でもありました。この経験を活かし、これからはダンサーとしても振付家としても積極的に挑戦していきたいです。(北郷、鈴木)



中村日和・中野寧々(3年生) SHOWCASE振付者(B3クラス)

10人以上に振付をするというのが高校生以来で、なかなか要領が掴めずに苦戦することもありました。しかし中村のリーダーシップやB3クラス全員の温かさに幾度となく救われながら、振付者として多くのことを学ぶことができました。私は1年生SHOWCASEの時に初めて曖昧で複雑な表情をもって表現することの快感を知り、後に繋がる経験となったので、傲慢かもしれませんが私も1年生に踊るだけでなくそういった表現をする機会を与えられたらという思いで作りました。今後表現をする上で、今回の作品に何か思い出すものがあってくれたら幸いです。(中野)

今回難しいと感じたことは自分自身が1年生の頃と比べ今年の1年生は対面授業が少なく、1年生同士でもあまり関係性を築けていない中リハーサルが進んでいくことです。しかしそれゆえにリハーサル自体が1年生同士の親睦を深める場となり、徐々に距離が縮まっていく姿に感動することもできました。またその1年生の輪に私たち振付者も加わり20人全員で作品を創っているという感覚を得ることができたのはとても嬉しかったです。私にとってこの経験はとても価値のあるものとなりました。関わって下さった皆さん、ありがとうございました。(中村)



前期授業

河野萌(4年生) スペイン舞踊2

この授業を受講する前まで、スペイン舞踊のイメージも知識もありませんでした。しかし、授業を受講していくうちに身体でリズム・音楽を奏でている感じに魅力を感じ、できなかったステップがだんだんできてくると嬉しくなり、スペイン舞踊が大好きになりました。

ステップは自分の足なのに全然動かなかったり、リズムが取れなかったりと難しく感じることも多かったですが、先生が何度も丁寧に教えてくださったおかげでだんだんできるようになってきました。

授業最終日のテストでは、実際にプロの演奏家の方が来て下さり、生のギターと歌に合わせて踊ることができました。演奏を聴くだけでも大興奮でしたが、その中で踊れたことは緊張よりも楽しさが勝り、本当に幸せな経験ができたなと思ったのと同時にこの授業を履修し、スペイン舞踊を学ぶことができて本当によかったなと心から思いました。テストの後、先生が踊ってくださったのを見た時の興奮と伝わってきたパワーは今でも忘れられません。

プライベートで先生のレッスンに行くなど、先生の公演があれば観にいきたいと思うほどスペイン舞踊が大好きになりました。



漁野萌々香(2年生) 野外上演法

新型コロナウイルスの関係で映像作品となってしまう、完成した作品の想像があまりできなかったため、初めは物凄く不安になりました。学年では、初めて話す子もいる中で、全員が納得のいく作品をどのようにして作り上げていか悩むこともありました。1人1人が良い作品にしようと真剣に考えているからこそ本気でぶつかる部分も多々ありました。しかし、それらを乗り越えて全員でグラウンドで踊ったことは、昨日のこのように覚えています。このような状況に関わらず、大人数で踊ることができた幸せは、大学生活の良い思い出となりました。踊っている時の全員の足音や息づかいなどその空間でしか味わえない臨場感はとても良い刺激となりました。また1つのシーンで様々な角度から撮影をしたため、どこが使われるかが想像できなかったのですが、完成した作品の動画を見て、1人1人が楽しそうに踊っている姿を見ることができて感動しました。このような素晴らしい作品を作り上げるには、リーダーはもちろん渡辺先生、浅野さんをはじめとする沢山の先生方や2020Dのみんなの協力が無ければできなかったと実感し、感謝しかありません。改めて私たちにしかできない作品ができたと思います。この経験を生かして残りの大学生活を充実させていきたいです。本当にありがとうございました。



羽田野裕子(1年生) タップダンス

初回の授業では、なれないステップとリズムを覚えることに必死でした。基本的な動きでさえも上手くいかず、すごく焦りましたが、何度か回数をこなしていくうちに、リズムが自然と身体に入ってくるようになりました。頭で考えるよりも先にその動きやリズム、音楽を身体で感じ楽しむことが必要なのだと思います。

タップダンスは普段やっているようなダンスとは少し違い、「技術」というイメージがあり、ダンスの自然な流れに乗って楽しむというような感覚はあまりないと思っていました。しかし実際に自分の足で奏でるリズムは、自然と自分の身体を動かしてくれました。タップダンスのイメージが一転した瞬間でした。

友達とペアになって違うリズム同士で練習することもありました。お互いがお互いのリズムに耳を澄まし、かつ自分のリズムも正確に奏でることはすごく難しかったです。2人のリズムが合った時はすごく気持ちよかったです。

また先生は私たちに「上手いか下手かではなく、やろうとするかどうか」とお話しくださいました。やりたい!という視線やオーラは見ている人にストレートに伝わり、その気持ちの人が人を動かすということも教えていただきました。タップダンスの授業を通して、タップの技術だけでなく、これからも重要な大きなことを教えていただきました。



集中講義

片山葉月(2年生) ダンスカレントA

ダンスカレントAは、舞台制作の基礎と共に照明や音響の実践的な技術を学べる授業です。舞台裏について一から学びたかった私にとって、とても意義深い4日間でした。

この講義では有志の学生によって創られた無音で装飾のない作品を見て、そこに光や音の演出と作成をすることで、新たな作品として生み出します。プロの方の講義で必要な知識を得てから取り組むことができるため、学んだことが舞台上で活かされていくのを感じました。難しさはもちろんありましたが、ダンサーの動きから感じとった何かを自分たちの手で形にすることに楽しさを感じ、グループごとに異なる作品の捉え方にも感銘を受けました。

受講者は機材の経験が浅い生徒が多く、私もその一人でした。自分たちがやりたいことがある一方で、実際の操作は想像以上に難しいものでした。しかし、ダンスと光と音を舞台上で高め合うことに真の総合芸術を感じると共に、その醍醐味と責任を実感しました。

裏方としてのやりがい、舞台にいる全員で創り上げる意識、再び踊り手として舞台に立つ際の感謝や反省など、沢山のことを学びました。それぞれの意味と役割の大きさを感じながら、今後も舞台に関わり続けていきたいです。



下田恵(4年生) ダンスカレントB

夏の集中講義にてトムソン先生から4日間リモンテックを学んだ。日々トレーニングを行うことで、かなり体が楽に動かせる方法を知り、癖のないシンプルな動きができるようになったと感じた。重力を感じることに、呼吸をすることの大切さを改めて体感することができ、とても良い学習になった。

また、午後にはリモンテックに関しての書物の英文読解や動画鑑賞を行い、より理解を深めることができた。他にも、技術だけでなく友人や先生とフィードバックを繰り返すことで、自分の中で動きの説明をするボキャブラリーが増え、リモンテックで使われる英語のワードの意味も理解できることで、より具体的にイメージしながら体を動かすこともできた。

今回学んだことは普段自分が行っているジャンルとは違ったが、かなり広い範囲で生かしていける知識や技術だと感じたため、体の使い方や呼吸法を意識して今後も自分の踊りに取り込んでいきたいと思う。

最後になってしまったが、このような御時世の中、時差のある国に住んでいるにもかかわらず、1人1人に丁寧に指導してくださったトムソン先生に感謝の気持ちを伝えたい。今回学んだことは今回きりにするのではなく、学んだ知識を生かして、より良いダンサーになれるように頑張りたい。



黒丸紅葉(3年生) 舞踊学演習(テクニック&レパートリー)

この4日間は、様々な角度からダンスに対するアプローチの仕方を学ぶ中で、自分の踊り方と重ねて、常に自分の身体と向き合いながら取り組むことになりました。その結果得られた新たな情報や気づきの量は莫大で、非常に濃い時間を過ごしました。踊る身体のためのトレーニングは今まで自分では意識できていなかった部分を使ってコアなものを感じ、非常に新鮮でした。バレエのバーとセンターのレッスンをしながら、体の角度や動きの向きの付け方によって他者から見られる時の印象が自分の認識と相違すること、また“自己紹介”という名目で受講者全員で輪を作りその内側で一人ずつインプロヴィゼーションをすることによって自分の中から出てくる動きの自覚、そして他者を見ることで得られる新しいエッセンスやその粹のない自由な感覚、こういった全てのアクティビティに数え切れないほどの学びがたくさん埋まっていた、それを吸収できるチャンスが沢山あることが嬉しくて仕方がないといった充実感を味わう数日間でした。もちろん与えてくださった振付を観察しながら踊る中で、自分の弱い部分が明らかとなって思うようにいかない時間が少なくなかったのですが、それも含めて自分がコンテンポラリーダンスを踊っていききたい意志を再確認できるような時間だったと思います。改めてこの集中講義を受講できて良かったです。



柴崎莉良(3年生) 現代の舞踊論

夏休み終わりの4日間、体育大だからこそ専門分野に特化した、生理学、物理学、運動学、解剖学、栄養学などから舞踊を考える機会を得て、踊るだけではわからない視点から新しい発見をすることができました。ある講義で、動きを効率化する方法として数値化して検討することを学びましたが、しかし数値にとらわれすぎるとダンスの芸術性が損なわれてしまうようにも思われ、サイエンスと芸術との相違も勉強になりました。

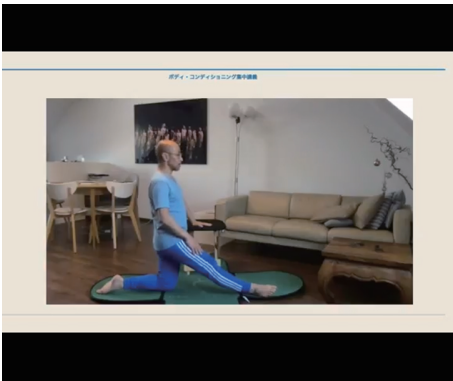
今回学んだことはダンスを続けていく上で、必要不可欠な知識だと思います。ダンスを専門外とする先生方からのダンスについての視点も、普段何気なく踊っている私にとっては、とても新鮮でした。

この講座名である「現代の舞踊論」は、現代の舞踊についての論ではなく、現代問われる舞踊論ですが、日々塗り替えられていく情報に惑わされることなく腰を据えた論理を学んで、これから進む上で取捨選択の場が来る際に、一日でも長く踊り続けていく戦略を考えるきっかけとなりました。ありがとうございます。来年も聴講したいです。



砂生萌(2年生) ボディ・コンディショニング

ボディ・コンディショニングを受けて、ダンスをするときに限らず体に対する意識が変わりました。ボディ・コンディショニングはオンライン形式で4日間を通して行う内容で、実験をしながら体の様々な部位の使い方を学ぶことができました。私が一番面白いと感じた内容は、1日目の骨盤周辺についての内容です。その中でヨガベルトを腰に巻いて歩いて、普段の歩きとの違いを見つけるという実験をしました。私はヨガベルトではなく普通のベルトを巻き付けて実験したのですが、腰に巻きつけるだけで自分の身長が伸びている感覚や体が引き上がり姿勢が良くなっているのを感じることができました。これは、ベルトを巻き付け骨盤にきつい負荷をかけることにより、尾骶骨が内側へ動き背骨のS字カーブしている部分が伸ばされているため起こる現象ということもわかりました。普段私は姿勢が悪いので、ベルトを巻きつけるだけで姿勢が良くなる感覚がとてもわかりやすく感じました。実験の他に毎日行ったジャイロキネシスは呼吸を大事にしているヨガのようだと感じました。対面ではなかったのですが友達と一緒にすることはできませんでしたが、自分の体を知ることができる良い機会となりました。



横山未弥(3年生) フォークダンス

8月23日～8月27日の4日間、ニチジョの卒業生でもある山梨雅枝先生による、フォークダンスの集中講義が行われました。講義では、ドイツ、アメリカ、ブラジル、イスラエルといった世界各国12種類のフォークダンスについて学びました。国ごとに、優雅なものや元気なもの、音楽の雰囲気や男女の組み方の違いなど様々な特色があり、受講者の中でペアを入れ替えながら楽しんで踊りました。

現在、中学や高校の体育の授業でも取り入れられているフォークダンスですが、踊りの中でペアの人と手を繋いだり目を合わせたり、繰り返し行う短いフレーズで人と人とがコミュニケーションをとることができる、良いツールだと思いました。何かを表現するためのダンスとは目的が異なるかもしれませんが、決して難しくはない振付を通して体を動かしながら楽しさを共有できることも、ダンスの良さのひとつだと思います。人と人との距離感を気にせざるを得ない現代ですが、フォークダンスのようにダンスを通して人と繋がることの楽しさを再認識できたらいいなと思いました。

元気いっぱいな山梨先生のご指導のもと、講義から試験まで楽しく踊ることができました。ありがとうございました。



中澤大空(3年生) 表現運動学演習 (演技)

この授業では、演技に必要な集中力、空間把握能力、演技を行う上での表現方法、について主に学びました。上記の学んだものをすべて使い、配られた共通の台本をグループで話し合い、一つの作品を作っていく授業です。

フロアを歩いて先生が指定した人数で瞬時に集まるというものでは、空間把握を学びました。演技を行う上で、相手や物との距離感、何もない空間などをいかに埋めるかというのが大事になります。

また、全員で歩く速度を同時に増減速していくもの、何人までが手を使わずに背中合わせで立つことができるかなど方法では集中力や相手との間について学びました。相手の気配を読み取りその動きに合わせることで演技や表現に使うときの集中力を養う。後ろにいて見えない人のことも、気配で位置や間を把握しなければいけない。これが想像以上に難しいのです。それほど集中しなければ表現というのは難しいのだと思いました。

そして表現方法については、初日に「街中で見つけた人の特徴をとらえ、その人の設定を自分で考え、その人を演じて見せる」という課題がありました。実際にやってみると、綿密に設定を練っている人もいれば、ざっくりと考えていた人もいました。演技を行うときは他者を演じる。その上で自分以外の人間を知る必要があるため、人間観察が大事と知りました。

実際に、完成した作品を見ると、まったく同じ台本でもグループごとに動きやニュアンスは全く違い、そこにまた面白さを感じました。



部活動サークル活動

古谷美咲(4年生) ダンス・プロデュース研究部(全日本高校・大学ダンスフェスティバル(神戸))

兵庫県神戸市で開催された全日本高校・大学ダンスフェスティバル(神戸)は2年ぶりの開催となり、その本大会に向けて、ダンス・プロデュース研究部員18名で参加発表部門に出場しました。その参加を目指して1月から練習、改訂を重ね取り組んできましたが、4年生の振付者を中心に学年を跨いだ18名が長期間にわたって創り上げた今回の作品は、コロナで大学の活動を見送ってきた2年生にとっても、あらゆる場面で先導する立場となった3年生にとっても、そして大学生最後の学年である私たち4年生にとっても、新たな出会いや刺激に溢れた思い出深い充実した時間となりました。ダンサーは与えられるだけでなく自ら考える振付システムの中で自己課題と向き合い、時に苦しみながらまた一歩成長できたと信じます。

この伝統の大会に出場できたことを通して、コンテンポラリーダンス作品の創造に挑むニチジョの新たな一面を発信できたのではないかと考えていたら、終わってから見知らぬ他大学の方にその意図を理解して声をかけていただきました。本当に参加して踊れたことに感謝と喜びでいっぱいです。



山崎紀乃香(4年生) モダンダンス部(全日本高校・大学ダンスフェスティバル(神戸))

私達モダンダンス部は、8月11日から14日にかけて行われた全日本高校・大学ダンスフェスティバル(神戸)で、作品「満ちる」を踊り「日本女子体育連盟会長賞」を頂くことができました。

私達の目標であったこの全国大会がコロナ禍のため昨年は中止となり、とても辛い思いをしました。今年はコロナ対策を講じた上での開催となり、常に不安を抱えた状態での大会でしたが、この大会が無事に開催できた事や出場できた事への感謝の気持ちを忘れずに全力で挑みました。

作品「満ちる」では、月の満ち欠けの中に女性の優しさや強さを表現し、美しく生きていく姿を動きに託しました。作品を創る際には、モダンダンス部にしかできない動きを目指し日々の練習に励みました。

この作品を通して、試行錯誤を繰り返し、仲間とぶつかり合いながら苦難を乗り越えた経験を今後の活動にも活かし、さらに成長できる様、部員一同努力して参ります。

大会に参加するにあたり熱くご指導して下さいました坂本先生、そして応援して下さいました全ての皆様にご心よりお礼申し上げます。ありがとうございました。



※撮影時のみマスクを外しています

土井裕美(3年生) 舞踊部発表会(映像撮り)

舞踊部は例年四年生引退公演として舞踊部発表会を8月に行っていました。今年度はコロナ禍であるため部員のみでの公開にしようとしていましたが、直前に感染者数が多くなったことから発表会という形ではなく『撮影会』という形で計6日間に分けて行うことになりました。元々は3日間しか施設を押さえていなかったため、数日施設を貸してくださったダンス・プロデュース研究部とソングリーディング部の方々には感謝しかありません。また、忙しい時期に対応してくださった部長の松山先生、監督の宮本先生をはじめ照明の方、撮影の方にもとても感謝しています。私自身、今回の舞踊部撮影会で初めて主催する側に立ち、舞台というのは多くの人の協力があって出来上がるものだと思えてきました。コロナ禍で初めての大きなイベントとなり最後まで不安がつきませんでした。振付者・出演者の皆さん、全スタッフの協力のおかげで無事に13作品全ての作品を撮り終えることができました。そして、何よりも撮影会という形にはなりましたが4年生の先輩方の引退の場を作ることができて本当に良かったです。



清水理香(4年生)ソングリーディング部 (2021 ライブ・オンライン ICU世界チアリーディング選手権大会)

私達は10月10日に行われた2021 ライブ・オンライン ICU世界チアリーディング選手権大会に日本代表として出場させて頂き、Team Cheer Jazz 第2位という結果を頂きました。

今回初めてコロナ禍の中で、オンラインという形で世界大会へ挑戦するにあたり、新体制でチームをスタートしたばかりだった私達には課題が多く、様々な不安や焦りがありました。また、私は2019年に同大会への出場経験がありましたが、その時と比べると、チームで過ごした時間や作品にかけてきた時間は到底及ぶものではなく、うまくいかないことや立ち止まることが多々ありました。

しかし、世界中が大変な状況だからこそ、逆境に負けず強く進み続けること、そして踊る事や夢を諦めないという想いを演技にして、1人でも多くの人の心に、映像を通して届けたい。その気持ちをもって日々練習に取り組んでしてきました。

本番の映像撮影では、チームメンバー全員が今ある全ての力を出し切り、思いの丈を演技に乗せる事が出来ました。私達が悔いなく踊り切る事が出来たのは、どんな時も共に戦って下さった部長、監督、コーチ方、OGの先輩方、そして学校関係者や保護者の方々のご支援があったからです。

今後は今大会を経て勝ち得たチームの信頼関係や自信を糧にして、どんな状況でも高みを目指し、自分達のベストを尽くしていきます。そして、目標や夢に向かって真っ直ぐに取り組める環境があること、支えて下さる全ての方々への感謝の気持ちを忘れずに、日々精進して参ります。



NEWS

<2021年度オープンキャンパス>

2022.3/21(月・祝)

<ダンス学科ダンス行事>

第20回 日本女子体育大学 舞踊学専攻 卒業公演

2022.1.21(金)@府中の森芸術劇場 ドリーむホール

<日本女子体育大学イベント・入試情報>

【日本女子体育大学サイト】

<https://www.jwcpe.ac.jp/>



入試・広報課



ダンス学科



編集後記

最後までご覧いただき、有難うございます。

コロナ禍は続いています。大学の協力があり、対面での授業などの活動を通して多くの学びを得る機会がありました。活動の様子を、ダンスレターを通してお伝えできることを嬉しく思います。

これからも学生たちの活動の様子を多く伝えていきますので、よろしくお願いします。

田中千愛、福島愛菜



上記のオープンキャンパス、ダンス学科ダンス行事等のイベントは、新型コロナウイルス感染症の拡大状況により変更が生じる場合があります。必ず本学ホームページをご確認ください。

発行日 2021年12月5日(日)